

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
鉄道史	鉄道の歴史と「文化」・観光	濱 雄亮	2 年次後期
講義の目的	鉄道が日本に導入されてから 150 年近くが経過しました。その間には、技術の革新や社会的位置づけの変遷がありました。また、鉄道が開通することで、観光や仕事や娯楽などの「文化」にもさまざまな影響が及びました。このような鉄道の発達の歴史を理解することと、鉄道の発達と私たちの「文化」が影響を与え合う様子を理解することで、教養ある交通人になることを目指します。		
到達目標	鉄道がどのように発達してきたのか、政治や技術の観点を含めて理解していること。 鉄道の発達に伴う「文化」への影響について理解していること。 いずれも、具体例を挙げて説明ができること。 以上を到達目標とします。		
講義内容	まず、鉄道の日本導入以来の歴史について、政治史や技術史などいくつかの背景と照らし合わせて、具体例に基づいて講義を行います。次に、鉄道と「文化」の影響関係について、鉄道と「初詣」の関係・町おこしと鉄道など観光を中心とした具体例に基づいて講義を行います。最後に、訪日外国人観光客の増加やオリンピック開催を念頭に置き、外国人観光客がもつ日本イメージや「文化」について理解するための視点についても、具体例に基づいて講義を行います。予備知識はとくに必要ありません。		
講義スケジュール	第 1 講	オリエンテーション (授業の趣旨・方針・評価方法の説明など)	
	第 2 講	鉄道の近代史(1) 鉄道導入以前の日本の交通・観光事情	
	第 3 講	鉄道の近代史(2) 鉄道と産業・経済	
	第 4 講	鉄道の近代史(3) 鉄道と対外政策	
	第 5 講	鉄道の近代史(4) 鉄道と技術	
	第 6 講	鉄道と人間(1) 鉄道による観光経験の多様性 (修学旅行・伊勢参宮など)	
	第 7 講	鉄道と人間(2) 鉄道ファンの誕生	
	第 8 講	鉄道の現在(1) 交通事情の変化と鉄道	
	第 9 講	鉄道の現在(2) 情報通信技術と鉄道	
	第 10 講	鉄道の現在(3) 地域社会と鉄道 (近代化遺産・町おこしなど)	
	第 11 講	鉄道と文芸(1) 小説における鉄道の描かれ方	
	第 12 講	鉄道と文芸(2) 映像メディアにおける鉄道の描かれ方	
	第 13 講	鉄道の現代史(1) 戦後復興と鉄道	
	第 14 講	鉄道の現代史(2) 国鉄の諸問題と改革	
	第 15 講	総括	
方法指導	毎回紙の資料を配付して講義形式の授業を行います。映像資料やウェブ上の動画・画像や講師が撮影した写真を映写することもあります。毎回、コメントカード記入などの授業内課題を課します。なお、「**と聞いて思いつくこと」などをその場で質問し、履修者の答えを講義に生かすこともあるので、積極的に答えてください。		
授業外学習	事前学習として、シラバスに挙げられている項目について事典・書籍・ウェブサイトによって概要を調べて下さい。事後学習として、授業中に紹介した書籍や配布物を読むことや、自ら関連映像資料を探して視聴して下さい。		
成績評価方法	平常点 (授業内課題) : 40%、平常点 (レポート) : 15%、本試験 (筆記試験) : 45%。		
テキスト	用いません。紙の資料を配付します。		
参考書籍	老川慶喜『日本鉄道史 幕末・明治篇』中央公論新社、2014 年。同『日本鉄道史 大正・昭和戦前篇』中央公論新社、2016 年。原田勝正『産業の昭和社會史 8 鉄道』日本經濟評論社、1988 年。原田勝正『鉄道と近代化』吉川弘文館、1998 年。他にも随時紹介。		
事項			